はじめに

■大学入試での文化史の「ガンバリ」について

90年代にはいって政治史に少しだけ遅れをとっていた文化史が、1998年、全出題の19.3%(大問ベース)を占めてついに首位の座を奪回しました。それ以来一貫して20%台の高い出題率が続いています。しかも他の分野との組み合わせての出題を加えれば、もっと多くなりますし、さらに政治・外交・社会史の問題にも文化史知識が多くもぐりこんでいます。遣唐使や、南蛮貿易や鎖国下の外交などと文化を関連付けての出題、さらに、従来さほど重視されていなかった、庶民芸能や大正・昭和初期の大衆文化と学問、さらに戦中・戦後の文化などの新傾向の出題も増えています。とにかく、軽視されがちだけどマスターした者が圧倒的優位に立てるのが、出題分野別ナンバーワンの文化史であることが分かってもらえるでしょう。

■この問題集が生まれたところ

予備校で日本史を担当していて感じる、文化史を弱点とする受講生の多さ。河合塾サテライト講座の文化史を担当して伝わってきた「分かる」文化史への期待の大きさ。これらが本書を生みました。また、ちまたの参考書・問題集では、どこまで覚えたら良いのか、どう理解して知識を組み立てたら良いのかが見えてこないという声を聞きます。大学受験に本当に必要な単語力や理解の「ここまで」が示されてないからです。本書は、私の予備校の教室での普段の講義をもとに構成しています。しかし、産地直送ではありません。「聞いて分かる」から「読んで分かる」に変換をしてあります。

■受験生と文化史対策について

「文化史が苦手だ」、「覚えられない」という受験生からの苦情(?)をよく聞かされるのですが、正直に言ってこうした声にはウンザリさせられます。ひたすらヤミクモに暗記に走ったところでうまくいかないのは、他の分野や教科の経験でとうに知っていることではないのですか。また、食わず嫌いでは、なにも新しい世界が開けないのも同様だと思います。通りすがりの他人の名前と特徴を覚えつづける、なんて普通の人にはとてもできません。「みんな苦しんでるんだ」ということも知って、教科書・資料集などの写真も駆使して、"単調な暗記=文化史"のイメージをなんとか乗り越えましょう。この問題集が、あなたがさまざまな文化と親しくなれる助けになるはずです。

神原　一郎

本書の使い方

■この問題集の構成と使い方について

■「講義編」…左の（字がすこし大きい）ページが**【TEXT】**にあたります。そう、予備校などで使うアレです。こちらが勉強のベースになります。

右のページがテキストに対応する**【NOTE】**です。テキストに書いてあることの理解や、押さえるポイントなどが盛り込んであります。私が講義で話したり板書したりする、文字どおりの講義ノートです。

＊**「講義編」との付き合い方**…やみくもに取り組むべからず！情報は3段階で構成してます。

【TEXT】

第1段階＝まず、基本から：**【TEXT】**のゴチック体になっている単語・事項が第１段階の**「絶対覚えて欲しいレベル」**です。まず、ここを卒業しましょう。

第2段階＝次により広めて：**【TEXT】**には、第2段階の**「覚えたいレベル」**の単語・事項まで書いてあります。この辺が勝負の第１の分かれ目になります。

【NOTE】

第3段階＝理解がないとダメ：**【NOTE】**は**【TEXT】**の理解のためのページです。覚え方から始まって、入試での問われ方・正誤問題対策用知識などが盛り込んであります。こうして私立大学入試やセンター試験対策を仕上げます。さらに、「発展レベル」と称しているところは、第4段階の**「できたらココまでね」**という、ゆとりのある受験生用知識です。加えて、論述問題でも問われる「深めで広めの理解」も配置してありますが、このあたりは覚えるのでなく「分かっておく」という意識で読んでください。

＋α段階＝その他にもいろいろ：**【整理】**は、①類似品の見分け方、②系譜・発展段階の理解などが必要な項目についてのまとめです。これはぜひマスターしてください。**【史料】**は、頻出のものに限定して配置しました。これらの史料は、空欄箇所も下線部設問も各大学に約束事でもあるかのようにワンパターンで攻めてきます。これらも絶対クリアーしてください。

仕上段階＝テーマ史にも対応：時代別に重要事項をまとめるのは、日本史学習の基本です。文化期ごとに各ジャンルを整理してきた受験生は、次にテーマ別（ジャンル別）に通史的仕上げをしなければなりません。第4講・第10講には**【テーマ史】**が配置してあります。一度時代別に学習をすませたことですから、その多くはやや発展レベルの内容も盛り込み、同時期の政治・経済・社会・外交などとの関連にも力を入れてあります。なお、焼き物・暦・茶道などマイナー系テーマは、「参考」として**【NOTE】**のなかにそれぞれ書んでいますので、他が仕上がったら手をつけてください。

■「演習編」…新しく・典型的で・学習効果のある問題をセレクトしてあります。

＊「演習編」との付き合い方…繰り返し取り組もう！（できれば2～3回は）。

【演習問題】

「講義編」の各講の学習が終わったら、それに対応する問題に1回目のチャレンジをしてください。出来なかったところや、意味がよくわからなかったところは、もう一度「講義編」にもどって整理してください。大学のレベルは問題のレベルに反映しません。大学名にこだわらず問題をセレクトしました。文化史学習の仕上げと正誤問題が苦手な受験生のために、問題Ⅲは全時代・全分野の正誤問題で構成しました。この問題集での学習の総仕上げのために、これは最後までとっておいてください。

＊各問題に付いている★印は、その主題の重要度＆出題頻度を示しています。欧米のホテル・ランク付けにならって、5段階で評価しました。五つ星が「最重要」、一つ星は「出題がマレ」をそれぞれ意味します。☆印のは、講義編では本格的に扱っていない、特殊テーマです。

■「解答・解説編」…分かりやすく・自分の実力を測ることの出来る解説です（別冊）。

【解説】

分かりやすさとともに、出来なくてよいものは「いらない」という勇気をモットーに解説は進みます。「講義編」と重複する部分は、多くの場合「これは……だったね」的まとめで終わっていますから、記憶があいまいなときは、またも「講義編」に戻ってください。わずらわしく感じるかもしれませんが、こうして、テキスト・ノート・問題を行き来するなかで、知識が確実なものになっていくのです。

■最後になりましたが、この問題集は10講で構成しています。夏と冬の講習をあわせて受講したつもりで、あるいはレギュラーの講座を1学期分受講するつもりで、1講ずつあせらず着実に取り組んでください。ひとつのペース・メーカーになるはずです。

もくじ

講義編

第1講　外来文化の時代 ……11
1．飛鳥文化
2．白鳳文化
3．天平文化
4．弘仁・貞観文化

第2講　日本独自文化の展開Ⅰ ……25
1．国風文化
2．院政期文化
3．鎌倉文化
付　重要史料チェック①

第3講　日本独自文化の展開Ⅱ ……39
1．室町文化
2．桃山文化
3．江戸初期の文化

第4講　テーマ別整理Ⅰ ……53
テーマⅠ．古代仏教史
テーマⅡ．古代～近世建築史
テーマⅢ．古代仏像彫刻史
テーマⅣ．古代～近世初期絵画史
付　重要史料チェック②

第5講　近世文化の展開Ⅰ ……73
1．近世の学問　儒学
2．近世の学問　国学
3．近世の学問　洋学
4．近世の学問　社会思想
付　重要史料チェック③

第6講　近世文化の展開Ⅱ ……89
1．近世の演劇
2．近世の文学
3．近世の絵画

第7講　近現代の文化Ⅰ ……99
1．近現代の思想
2．近現代の宗教
3．近現代の自然科学研究

第8講　近現代の文化Ⅱ ……109
1．近現代の教育
2．近現代のジャーナリズム
3．近現代の文学

第9講　近現代の文化Ⅲ ……119
1．近現代の美術
2．近現代の演劇・音楽
3．戦後文化

第10講　テーマ別整理Ⅱ ……129
テーマⅠ．前近代神道史
テーマⅡ．前近代の教育
テーマⅢ．史書編纂の歴史
テーマⅣ．古代・中世文学史

演習編 ……141